

就職氷河期世代をサポート

国民民主党の政策提言

2024年6月25日

就職氷河期世代とは

政府は1993年から2004年の期間を「就職氷河期」と位置付け、2018年時点で35歳から44歳であった1,689万人を中心層として、正規雇用を希望しながら非正規雇用で働く人が少なくとも50万人、仕事も通学もしていない無業者が40万人いると試算。

就職氷河期世代政策プロジェクトチーム設置の経緯

2024年3月28日、令和6年度政府予算三案に対する討論に立った伊藤孝恵参議院議員が自身の**就職活動で100社もの会社に落ちた**ことを述べたところ、**議場に笑いが起こった**ことに端を発し、国会議員の就職氷河期に対する認識不足を問う声がSNSにあふれた。



就職氷河期世代
に特化した
政策立案に向けての
アンケート

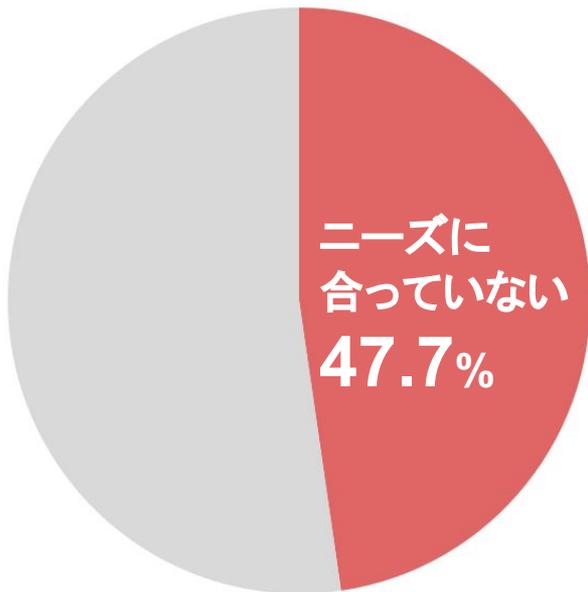


国民民主党では4月15～28日まで**アンケート**を実施。8日間で933人から回答があった。**最も多かった**のが、就職氷河期に安定的な職に就けなかったことによる**現在の生活および将来への不安**。政府の支援プログラムは87.8%が「利用していない」又は「聞いたことがない」との結果に。5月8日、伊藤孝恵議員を座長としてPTを設置。

PTで議論を重ね、切実な声を政策に

① 実態調査とこれまでの政策検証

政府の「氷河期世代支援プログラム」
を利用していない理由 国民民主党アンケートより



- 就職氷河期＝男性×非正規の固定イメージ
- ターゲットの解像度が低いので政策がニーズに合っていない
- ハローワークは失業者、無業者が対象



ひきこもり、長期の非正規雇用、
結婚・出産で退職、無業、在職中など
現況を勘案した選択肢をつくる



**まず就職氷河期世代の
実態調査が必要**

② 厚生年金の遡及納付と「最低保障年金」の構築

現在の課題・不安について

(国民民主党アンケートより)

1位 老後の備えが不十分

2位 生活が苦しい

3位 いざという時に頼れる人が少ない(またはいない)

- 不安定就労や無業者はもらえる年金が少なくなる(収入格差＝年金格差)
- 2016年以前はパートタイマーは社会保険の加入対象外(一部を除く)



- 過去に遡って年金保険料を納付して**年金額を増やせる**ように
- 抜本的には「**最低保障年金制度**」で新たなセーフティネットを構築



最低保障年金で
老後の不安を解消

③ 就労に困難を抱える人が働ける会社を国が支援

国民民主党アンケートの声

「スキルがない事を前提に引きこもり→正社員みたいな募集ばかりですが、実際には非正規でありつつ努力をして資格も持っているけど、生かす場面に辿り着けなかったということが理解されていない」



- 職歴の多さや資格の有無が気になる
- 採用面接に苦手意識がある



東京ソーシャルファーム(東京都の事業)

一般的な企業と同様に自律的な経営を行いながら、就労に困難を抱える方が必要なサポートを受け、他の従業員と共に働く社会的企業を東京都が支援

特定求職者雇用開発助成金(就職が困難な状況にある方の雇用を促進するための制度)の**拡充・延長**



面接や履歴書を入口としない採用を国主導で拡大

④ 就職氷河期世代の公務員採用を拡大

就職氷河期世代を対象にした

各省庁共通国家公務員中途採用試験

採用予定人数**157名**に対し

申込者数1万943名

(採用倍率60.7倍)

東京都の特別区職員採用試験

事務職募集枠**37名**に対し

申込者数2,479名/受験者1,514名

(採用倍率40.9倍)



- 減員が前提の国家公務員の定員管理
- 自治体の行財政改革でも職員定数減



→ **国家公務員・自治体職員**(教職員やスクールサポートスタッフ、保育士、福祉職など)の採用拡大



国や自治体による採用を
直接増やす

⑤「求職者ベーシックインカム」でリスキングを支援

国民民主党アンケートの声

「ブラック企業に勤めていると
分かりながら声もあげられず、
簡単には転職も出来ない為に
会社の言いなり。」

「失業保険中は安心して受給でき、
**リカレント、リスキルを積極的に
受けたい。**」



- 非正規の雇用・健康保険、厚生年金加入率は**50～60%**(失業中の生活保障なし)
- 求職者支援制度は所得制限など支援金(月額10万円)の**受給条件が厳しい**



→ 求職者ベーシックインカム

所得制限なし、全ての求職者を対象
支援金を月額15万円に引き上げ



安心して転職・スキルアップ
できるセーフティネットを

⑥ ビジネスケアラー支援策の充実

国民民主党アンケートの声

「両親に今後介護が必要になった時、**今と同じように働けるか心配**です」

「両親が共に後期高齢者になり、自身が結婚もできず、子供がいないので、**両親の介護と自分自身の老後に不安**が感じます」

「近い将来両親の介護をすることになるが、その際に余裕資金がない。**仕事と両立してやる事は恐らく難しい**のではないかと考えている」

- 非正規では介護休暇がとりにくい
- 時間給なら介護で収入減



- 団塊世代と団塊ジュニア世代の介護に関する**全国調査の実施**
- **介護サービスの拡充**
- 低所得世帯への**介護保険給付の充実**



安心して転職・スキルアップ
できるセーフティネットを